

「無問題」でインフルエンザの症状を和らげる

インフルエンザは、主に冬に流行する感染症として有名です。インフルエンザと‘風邪’は、一見似ているようですが、医学的には別物です。インフルエンザは、その名の通り「インフルエンザウィルス」というウィルスが体に侵入して起こる病気です。

インフルエンザウィルスは、普通の‘風邪’の原因となるウィルスよりも、遥かに病原性が強いのが特徴です。よって、インフルエンザでは、咳・鼻水・喉の痛みといった症状だけでなく、全身の疼痛や衰弱が出現したり、時には肺炎から死に至ったりするなど、危険性が高いといえます。

このように、インフルエンザは、ごく一般的でありながらも軽視できない病気です。インフルエンザの対策としては、ワクチンの予防接種や、「タミフル」などの抗ウィルス薬による治療があります。

しかし、逆に言うと、これら以外の治療の選択肢は貧弱であるのが実情です。特に、高齢者のように免疫機能が低下してきている人では、問題はより深刻です。

ウィルス感染症においては、体の中で炎症や酸化といった現象がおきてダメージを受けます。ですから、これらを抑える治療の効果には大きな可能性があると考えられます。しかし、そのような研究報告は、これまでのところ僅かしかありませんでした。

今回の実験は、抗炎症作用・抗酸化作用を持つ薬草成分を含む漢方養生食品「無問題」が、インフルエンザにおいて、どのような効力があるかを調べたものです。

実験の概要は以下のようなものでした。

まず、ネズミを3つのグループA・B・Cに分けます。そして、グループAは健康なまま飼育し、グループBにはインフルエンザウィルスを感染させました。そして、グループCにはインフルエンザウィルスを感染させた上で、「無問題」を与えました。

そして、8日間経った後、各グループのネズミの体内において、どのような変化がおきているかを比較しました。

それでは、結果をみていきましょう。

まず、単にインフルエンザに感染しただけのネズミに比べて、「無問題」を投与したグループでは、運動や活力の低下は目立ちませんでした。また、鼻の症状も明らかに軽くなりました。そして、発熱の程度や期間が46%も軽減していました。

以上の結果は、「無問題」が、インフルエンザにおける辛い症状を緩和していることを示唆しています。

次に、「フォルマザン陽性細胞」という、体内での酸化によるダメージを表す細胞の数も比較しました。すると、通常の感染では80%増加していたものが、「無問題」を投与すれば44%の増加に抑えられました。

また、血液中の「スーパーオキシドディスムターゼ (SOD)」や「カタラーゼ」といった酵素の働き、さらには「ビタミン C (アスコルビン酸)」にも違いが現れました。これらはいずれも、体内における酸化ダメージを防ぐために重要なものです。インフルエンザになったネズミでは、これら全ての物質が減少していましたが、「無問題」を投与したグループは健康なネズミと同程度の量が保たれました。

同様に、体内の酸化ダメージの指標となる「マロニルジアルデヒド」や、炎症の指標となる「TNF- α 」も測定したところ、感染時には明らかに上昇していましたが、「無問題」の投与によって、いずれも50%近く抑制されることがわかりました。

そして、鼻水（鼻洗浄液）の変化も観察しました。鼻水中に出現するインフルエンザウィルスの量に関しては、「無問題」の投与にかかわらず変化はありませんでした。しかし、「無問題」投与群では、明らかに早い段階から鼻水中の炎症細胞数の減少が認められました。

なお、肺からの抽出液でも、ウィルスの活性を確認しましたが、やはり「無問題」投与群で明らかな低下がみられました。

最後に、ネズミの肺の中では、免疫細胞の働きを表す指標である「RANTES」が37%も減少していました。これは、それだけ体内での過剰な免疫反応が抑えられたことを表しています。

以上の結果を総合してみると、「無問題」は、インフルエンザウィルス感染による体内の酸化や炎症といった有害な反応を、大きく抑えていることがわかります。

漢方養生食品である「無問題」に含まれる成分の多くは、抗炎症作用や抗酸化作用を持っています。そのため、インフルエンザによる症状が改善したと考えられるのです。

「無問題」の一つの一つの成分が持っている働きは、まだ完全には解明されていませんが、最近「RANTES」を低下させる仕組みが分かってくるなど、その潜在能力はとても興味深いところです。

実験の中では、「無問題」投与による副作用の有無も確認されましたが、全く問題ありませんでした。「無問題」は、安全に摂れる天然物質であり、今後の健康分野への応用がますます期待される漢方養生食品であると言えるでしょう。